

わだいの



▲産卵を終えて海に帰るアカウミガメ

ウミガメの産卵 牛深・天草

無事に生まれてくることを願って

県の希少野生動植物に指定されているアカウミガメが産んだと見られる卵が、6月17日に牛深町・茂串地区の海岸のほか、同21日には天草町・白鶴浜海水浴場でも確認されました。白鶴浜海水浴場では、県の希少野生動植物の調査員が、ウミガメが上陸した足跡を発見。足跡をたどって砂場をていねいに掘り起こすと、直径約5cmの白い卵を多数確認したほか、7月5日には産卵を終えたアカウミガメの姿も見られました。調査員の宮口光敏さん(天草町)は、「今年も上陸してくれて安心した。ふ化するまでに約50日かかるが、無事にふ化してくれば」と話していました。

なお、調査員以外が卵に触れたり採取したりすることは禁止されています。皆様のご協力をお願いします。



▶茂串地区の海岸で発見された卵と同地区の皆さん

タコつぼの投入式 有明

どのタコつぼにいっぱい入るかな？

大浦地区振興会が取り組んでいる“タコつぼオーナー制度”の今年のスタートを記念して6月27日、大浦漁港で「タコつぼの投入式」が行われ、抽選で選ばれた50人とその家族などが参加しました。この制度は、一口5,000円でタコつぼを2個購入し、地元の漁師に漁を委託するというもので、今回で3回目。式典では、参加者がオーナー証を受け取ったあと、タコつぼに名前やイラストなどを書き入れてオリジナルのタコつぼを製作。その後、参加者は船で投入場所まで移動し、タコつぼが投入されるようすを見守りました。熊本市から参加した米岡卓さん・元気さん親子は、「タコがたくさん入るといいですね」と笑顔で話していました。



▲タコつぼを手にする米岡さん親子



▲タコつぼを投入するようす

栖本地区芸術文化祭 栖本

真夏の文化の祭典

7月19日、「栖本地区芸術文化祭2010」が栖本福祉会館で開かれ、地区住民など約250人が参加しました。これは、文化活動を通じて住民相互の交流を図ろうと、昨年発足した市芸術文化協会栖本地区文化協会が初めて実施したものです。催しでは、地元の小・中学校の児童・生徒が合奏を、また、カラオケ・フラダンスや詩吟の愛好者などが日ごろの練習の成果を披露。ときには穏やかに、ときにはにぎやかに発表する出演者たちに、来場者からは盛んな拍手が送られていました。



▲フラダンスを踊る“カイカマヒネノヘア”の皆さん



▲声援を受けスティックを握りしめて集中する参加者

ニュースポーツ大会 御所浦

楽しかったよ囲碁ボール！

6月20日、御所浦漁村センターで「ニュースポーツ大会」が開かれ、嵐口地区の住民50人が参加しました。これは同地区振興会が、みんなで楽しめるスポーツを広めることを目的に昨年から開催しているもので、今回は“囲碁ボール”を実施。この競技は、碁盤に見立てた人工芝のマットを敷き、スティックを使って打ったボールの並び方で得点を競うもの。参加者は、はじめはとまどいながらも「とてもおもしろい」と夢中になっていました。



▲さわやかな味わいをぜひご賞味ください

限定！いくりシャーベット販売開始！ 五和

地産をいかした「ものづくり」

城河原地域づくり振興会では、地元でとれる“いくり”を使ったシャーベットの販売を始めました。いくりはスモモの一種で、城河原地域では各家庭で果実酒や生食用として広く栽培されており、毎年7月が収穫の時期。このシャーベットは、いくりの酸味と鮮やかな赤色の果肉がいかされており、夏の暑さを涼しくしてくれるようなすっきりとした味が特徴で、1個210円で販売されています。購入方法などの詳細は、同振興会事務局(五和支所・内野出張所内) ☎0355へお尋ねください。

繭姫通り「女の夜祭り」 本渡

年に一度の歩行者天国に多くの人出！

船之尾町から大浜町を通る市道(通称・まゆ姫通り)で7月3日、「繭姫通り『女の夜祭り』」が開かれ多くの人出でにぎわいました。これは同祭り実行委員会が、かつてこの場所にあった繭市場にまつられていた女神にちなんで、毎年開催。この日は、歩行者天国となった同通りに約50軒の屋台が軒を連ねたほか、10月に結婚するカップルによる花嫁・花婿姿のお披露目もありました。また、一般公募で選ばれた“まゆ姫様”や巫女も美しい衣装に身を包んで登場し、祭りを彩るなど大盛況でした。



▲“まゆ姫様”が花嫁・花婿を率いて行列